

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°29 カリーム・ヴィオネ

生産地方：ボジョレー

新着ワイン4種類♪

AC シループル ヴァン・ド・カヴ 2019 (赤)

2019年は歴史的な猛暑に見舞われた年。当初は2003年のような暑い年のポリウム豊かなワインができるかと予想されていたが、実際は、アルコール12.5%と度数は例年並みの果実味がジューシーでミネラリーなワインが出来上がった！カリーム曰く、2019年は気候の変化が複雑な年で、夏の前半に歴史的な猛暑が襲い、いったんブドウの成長にブレーキがかかり、そこでしっかりと酸が残り、その後、後半は収穫までむしろ涼しいくらいの夏が続いたおかげでブドウ熟成がゆっくりと進み、結果いつも以上にミネラルと酸が強調されたシループルが出来上がったとのこと。ワインは、カリームの言う通り滋味深くスパイシーで、チャーミングな果実味に溶け込む鉱物的な心地よい苦みが絶妙なアクセントとなっている！今飲んででも十分美味しいが、欲を言えばあと数年寝かせて果実味とミネラルが馴染んで一体となった状態のモノも飲んでみたい！

AC シェナ 2018 (赤)

2018年は、前年同様7月に雹が降り収量が半分に減った。収量が減った分ブドウの完熟スピードも速く、収穫日は9月6日と今までの中で一番早かった。収穫したブドウは雹の影響により実の部分に対する梗の割合が相対的に多かったため、梗のエグミが出ないようにマセラシオンは短めに抑えた。前年同様に2年ほどじっくりとカーヴで瓶熟させてからリリース。出来上がったワインは、滑らかな酒質の中に塩気のあるミネラルが凝縮した、エレガントながらもメリハリのあるしっかりとした味わいに仕上がっている！カリーム曰く、味わいにほとんど感じないが、開けたてはワインに細かい炭酸ガスが溶け込んでいるので、より滑らかな味わいを求めるのであればカラフをおススメとのこと！

AC シェナ ヴィエーユ・ヴィーニュ キュヴェ・ノエミ 2019 (赤)

カリームの娘のノエミが初めて仕込んだキュヴェ！カリームのシェナの畑は2つあり、一番樹齢の古い畑を2017年からキュヴェ・ヴィエーユ・ヴィーニュとしてリリースしているが、今回2019年のヴィエーユ・ヴィーニュの醸造を全てノエミに託したところ、カリームの仕込むワインとは全く個性の異なるキュートなワインを仕上げ、クライアントの評価も高かったことから、急遽ノエミラベルでリリースすることにした！ちなみに、エチケットのデザインはミッシェル・トルメー作。彼女の新しい旅立ち「Nouvelle Aventure」にちなんでトルメーがこの絵をプレゼントしてくれたそうだ。今回彼女がカリームと一線を画すために心掛けたことは、カリームよりも収穫日を早くし、逆にマセラシオンは気持ち長めに冷温でゆっくりと抽出するようにしたとのこと。出来上がったワインは、カリームのワイン以上にチャーミングでエレガント！果実味が口の中で溶けるようにまろやかで、それでいて赤い果実のフレッシュ感と骨格があり、これは正直父親のレベルを超えてしまった感がある！このワインを初年度からつくり上げた彼女はただものではない！

ミレジム情報 当主「カリーム・ヴィオネ」のコメント

2018年は、ブドウがかつてないほど早熟で収量の取れた当たり年。冬は暖冬で雨が多かった。芽吹きも早く、その後も5月終わりまで雨の多い天候が続いた。途中ミルデューが葉などに始まったが、開花には影響を及ぼさなかった。6月に入り一転、雨の降らない乾燥した天候が収穫終わりまで続いた。7月中旬にシェナが2年連続雹の被害に遭い収量が半分に減った。8月には猛暑が続き日照りの心配があったが、春と冬に降った雨の貯蓄があったおかげで水不足はどうか逃れた。最終的に収穫は、早熟だった前年よりも1週間早い8月終わりからスタートした。

2019年は、歴史的な猛暑に見舞われた年。4月初めと5月初めに寒波が下り、霜の被害にまで及ばなかったが、その影響でブドウの生育が大幅に遅れた。また、冬と春に雨がほとんど降らなかったため水不足が心配された。幸

い6月中旬にまとまった雨が降ってくれたおかげで水不足は一時回避された。その後6月終わり、7月終わりに40℃を超える猛暑日が続く、遅れを取り戻すかのようにブドウの成長スピードにも拍車がかかった。8月に入ると猛暑は収まり、中旬には数日に分けて適度に雨が降ってくれたおかげで、最終的に十分な収量を確保したまま収穫を迎えることができた。ただ、4月5月の寒波の影響により、収穫したブドウの完熟度合いはばらばらだった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

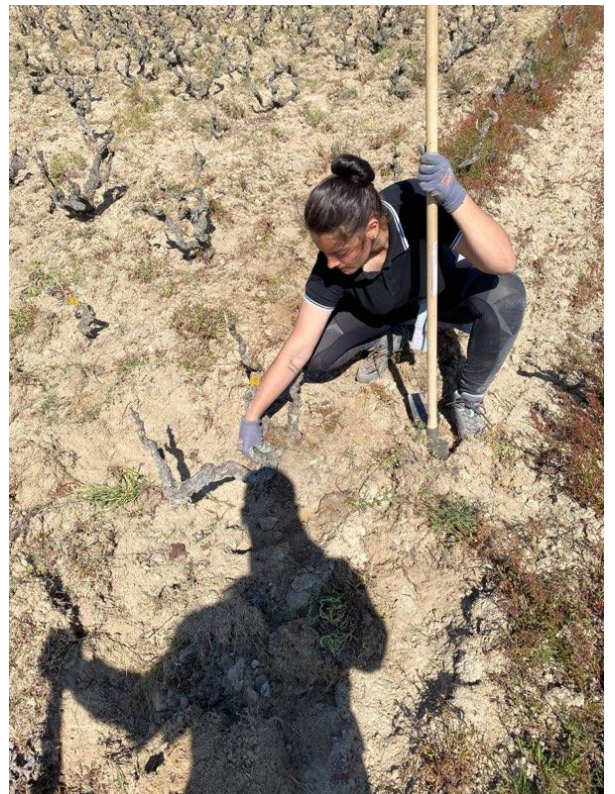


(写真①) ワイン出荷の準備をするカリーム

4月終わりに霜の状況の確認も兼ねてカリームを訪問した。いつも畑で忙しく作業をしているカリーム。普段彼はドメーヌにいないので、大体私がドメーヌに到着するなり彼に電話をし、畑から戻ってくるのをしばらく待っているのが通例だが、今回は珍しくカーヴで出荷の作業を行っていた。(写真①) 彼に聞くと、これからアメリカへのワインの出荷準備をしなければならないとのこと。彼曰く、アメリカがバイデン政権に代わり、ワインにかかっていたランプ関税が2月終わりから一時的に解除されたのを機に、ボジョレーはちょっとしたアメリカ景気が起こっているとのこと。カリームも例外ではなく、3月から毎月大きなオーダーがアメリカから入っているようだ。「とりあえず4ヶ月

という期限付きなので、その期間中にオーダーしようとアメリカのインポーターは血眼になってワインを買い漁っている！」と忙しく手を動かしながら満足げに語っていた。

今回新しくカリームの娘ノエミの仕込んだワインを日本にリリースするにあたり、彼女のワインの情報と写真が必要とのことで、カリームの作業中に彼女を探したのだが、カーヴには見当たらず。カリームにノエミの行方を尋ねると、何と彼女は従業員と一緒に朝からぶっ通しで畑の鍬掛けを行っているとのこと。ちなみに、私が訪れた時間は午後過ぎていて、気温は4月終わりにもかかわらず30度を超えていた。「こんな日差しの強い猛暑の中で畑の鍬掛け作業!？」と驚いている私を見て、カリームは早速証拠写真としてノエミに作業の様子を撮って送るよう頼んだ。しばらくすると彼女から返事があり、送られてきた写真がこちらだ。(写真②) 確かに、そこには直射日光の中、日よけの帽子もかぶらず顔を真っ赤にしながら作業を行うノエミの姿が写っている!彼女が行っているのは、ブドウの木のマわりにある雑草の鍬掛けの作業。トラクターの土起こし後に、取り切れなかった雑草を一株一株丁寧に鍬で除いている。常に前かがみの姿勢を取るため、腰を痛めるリスクのあるなかなかの重労働だ!それにしても、



(写真②) 大変な作業も積極的こなす娘のノエミ

「暑い中親父は涼しいカーヴ内で軽作業を行い、一方、娘は一日中畑に出て重労働を行っているって…どうなのよ?」と冗談交じりにカリームを責めたところ、「いや、むしろ畑に出たいと懇願してきたのはノエミの方だ」と苦笑交じりに彼が答えた。彼が言うには、彼女は同年代の二世ワイン生産者よりも遅くワインの世界に入ったことから、経験や知識に後れを取っているという自覚があり、今その穴を埋めるために、毎日ワインのあらゆることを吸収しようと積極的に学んでいる最中なのだそうだ。「今日も暑い中誰に頼まれる訳でもなく『ちょっとダイエットに行ってくる』と朝早く畑に出かけて行ったそうだ。



(写真③) 右半分が、ノエミが鋤掛作業を終えた部分。とても丁寧に作業がされている。

(写真③) の右半分は、ノエミが鋤掛けした後のもので、すっきりとし、土が綺麗で柔らかくなっていて、ノエミの作業がとても丁寧であることがよく伝わる。父親として「彼女の作業は誰よりも信頼できるし、今は彼女無くしてドメーヌは成り立たないと言っても過言ではない！」と誇らしげに語ってくれた。

私自身、ドメーヌ立ち上げ当初からかれこれ15年以上カリームを見てきているが、正直今ほど彼の充実感あふれる姿を見たことがない！一時はドメーヌが潰れかけそうになったところから見事に這い上がり、今は信頼のおける娘と一緒にドメーヌを軌道に乗せるカリーム。今回、彼の幸せそうな姿が本当に微笑ましく、また嬉しく感じた！

(2021.4.22.ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ